



SDM ニュース

SDM NEWS



学位授与式後の送別会にて

4

2010年 月号

行事予定

2010年5月7日(金) 16:20 ~ 20:30
 SDM研究科公開シンポジウム『「システムと脳」-文理を超えた新しい学問を創造する』
 @日吉キャンパス 独立館地下2階DB203
<http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/04/20-153221.html>

2010年5月15日(土) 13:00 ~
 研究科説明会
 @日吉キャンパス 協生館3階C3S10
<http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/04/22-125058.html>

2010年7月26日(月) ~ 27日(火)
 GLOGIFT2010
 10th Global Conference on Flexible Systems Management
 @日吉キャンパス 協生館
<http://www.f2ff.jp/glogift2010/>

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。
http://www.keio.ac.jp/ja/event/201004/201004_index.html

研究所長兼研究科委員長からのごあいさつ

最近の学事関連のご報告と国際関連の状況をお伝えいたします。
 去る3月29日、日吉キャンパスで行なわれた学位授与式におきまして、博士2名、修士49名の学生に学位が与えられました。また、新卒修士の学生17名のほぼ全員が希望する企業に就職し、社会に羽ばたいてまいりました。こうして無事に修士課程第1期生を送り出すことが出来ましたのも、皆様の格別のご理解とご支援があればこそその思いを強くし、この場を借りて厚く御礼申し上げる次第です。また、4月7日の入学式におきましては、新入生として修士課程に57名、博士課程に19名を迎えました。教員一同、気持ちを一層引き締めて、教育・研究に臨む気持ちです。



当研究科の国際連携については、複雑システムをデザインしてマネジメントするための統合的なアプローチをとり、国際性豊かなグローバルな人材育成を目指しております。そのため設立当初から国際連携と英語によるコミュニケーションを重視し、米国MIT、スタンフォード大学、オランダデルフト工科大学などの連携を深めてまいりました。今年度からは、文部科学省グローバル30プログラムの助成により、英語による授業を大幅に増強し、日本語が理解できない学生も必要単位を取得することが可能になりました。英語をネイティブ言語とする教員の採用、欧米大学からの教員による集中講義などを設置し、従来から英語で行ってきたデザインプロジェクトALPS (Active Learning Project Sequence) の陣容も強化し、外国人留学生の本格的受け入れに向けて態勢が整いました。

また5月以降、デルフト工科大学との共催によるワークショップ、再生可能エネルギー国際会議における理工学研究科との共催によるワークショップ、米国スティーブンス工科大学、インドIITMンバイ他とのフレキシブル・マネジメントに関する国際会議の共催など、各国大学との協力のもと積極的な活動をして参ります。このような海外との交流は、学生の国際感覚を磨き、コミュニケーションの重要さ・難しさを理解するために絶好の機会となると判断し、国際化・グローバル化に立ち向かう人材の育成のため、大いに推進していく所存です。今後も皆様のなご協力のご協力のご協力をお願い申し上げます。

SDM研究所長兼SDM研究科委員長 狼 嘉彰

最近のニュース

TOPIC 1 「要求工学」集中講義



Mr. Robert Halligan

2010年3月1日～5日、要求工学 (Requirement Engineering) の分野で世界的に著名なRobert Halligan氏 (Project Performance International社) を講師に迎え、5日間の集中講義が開催された。要求工学とは、システム設計における最上流のプロセスで、システムのライフサイクル全体を見渡しなが、システムとして満たすべき要求事項を分析し、明確に定義し、言語として記述するための技術である。講義は、潜水艦の緊急信号システムの設計をテーマとして採り上げ、当該システムに求められる要求の分析、要求の明確化、要求の定義、要求の審査、要求の品質管理、要求のマネジメント等、要求工学の一連のプロセスを短時間で効率的に、かつ、講義と演習を交えながら体感的に学べるように配慮して進められた。英語で行われた講義には、SDM研究科から多数の留学生と日本人学生が参加し、Halligan氏との活発なディスカッションの中から、要求工学の知識とテクニックを学んだのみならず、システムデザイナーとしての自信を深める絶好の機会となったようである。

通算17号 2010年4月発行



TOPIC 2 PMI- GAC (Global Accreditation Center) アカデミック・ワークショップ参加報告



アカデミック・ワークショップ参加22校の集合写真(2列目左端が当麻准教授)

3月2日、3日の2日間、PMI-GAC主催によるワークショップが、日本で初めて開催され、当麻准教授が参加してきた。PMI-GACは、世界最大のプロジェクトマネジメント協会である

米国 PMI (Project Management Institute)の下部組織で、大学・大学院におけるプロジェクトマネジメント専攻の学位プログラム認定や、産業界から大学への講師派遣などを行っている。米国を中心に世界10か国26校が学位プログラムの認定を受けているが、アジアでは上海交通大学1校のみで、日本はゼロというのが現状である。

今回のワークショップには、日本から北大、早大、九大など17大学が参加、欧米から訪れたBoston University (米)やSKEMA Business School (仏)など5校との交流を深めた。今後、SDMとしては、これ

ら国内外の大学との連携について話し合いを始めていく。

PMI日本支部(当麻准教授が教育担当理事を務めている)では、今後、大学に限らず高等学校に対しても、プロジェクトマネジメント教育の重要性を啓蒙していき、若いうちからプロジェクトマネージャーを目指す人材育成に努めていく方針である。

また、このワークショップでは、PMI日本支部がエンジニアリング振興協会(ENAA)および日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)と共催するという、これまでになかったプロマネ3機関の協力体制を築くことができたのも、産業界のこの分野での大きな成果となった。

関連URL ▶ http://www.pmi-japan.org/news/info/2010_03_04_pmi-gac.php

TOPIC 3 高野教授・狼教授 週刊東洋経済にインタビュー記事掲載

2010年3月10日号の週刊東洋経済に、高野研一教授および狼嘉彰教授のインタビューが掲載された。「リスクマネジメントのシステムを考える一本を見て森も見る、という視点」と題して、組織と人、両面を見渡すリスク管理システムの構築について紹介されている。記事詳細は以下のとおり。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/04/16-102619.html>



高野研一教授と掲載誌



TOPIC 4 「OPMとそのシステムズエンジニアリングへの応用」特別講義



Prof. Dov Dori

2010年3月26日、システムズ・エンジニアリングの新たなアプローチとして注目を集めるOPM (Object-Process Methodology) の創始者Dov Doriマサチューセッツ工科大学教

授を講師に迎え、SDM研究科において特別講義が開催された。OPMとは、システムの機能や構造、振舞いを統合的に可視化し、創造的に設計する手法であり、大規模・複雑な技術システムの開発のみならず、科学分野やビジネス分野にも応用が期待されているシステム設計テクニックである。講義では、「パン焼き機」を設計するという課題を例に採り上げ、OPMの基本コンセプトからOPMを利用する際の詳細な注意点まで、Dori教授から直接解説を受けることができ、さらに、世界的な第一人者と活発に議論を深めることができたという点で、SDM研究科の学生にとって千載一遇の機会となった。

Prof. Dov Dori

▶ <http://iew3.technion.ac.il/Home/Users/dori.phtml>



特別講義の様子

TOPIC 5 平成21年度大学院学位授与式

システムデザイン・マネジメント研究科発足から2年が経過し、初の修士課程修了者を輩出した。修了者は、修士(システムエンジニアリング学)の学位を受けた者が19名、修士(システムデザイン・マネジメント学)の学位を受けた者が30名、合計49名であった。なお、システムエンジニアリング学の学位は、システムエンジニアリングを中心とする技術系科目の単位を所定の数だけ修めた者が、システムデザイン・マネジメント学の学位は、社会系の科目の単位を所定の数だけ修めた者が、それぞれ得るこ

とができる。両者の条件を満たした学生は、いずれかを選択することができる。

また、2名の博士課程修了者を輩出した。SDMとしては、2人目、3人目の博士号取得者となる。

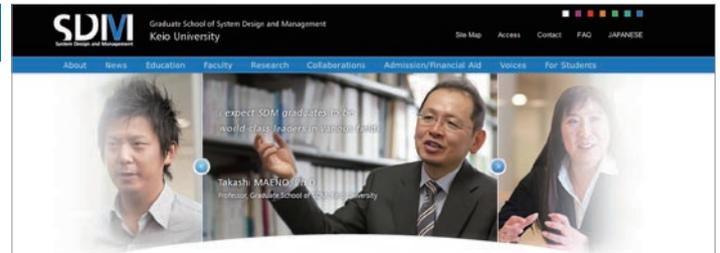
学位授与式は順調に行われ、野中朋美君に最優秀賞が、16名の修士課程学生に優秀賞が授与された。狼嘉彰委員長の挨拶の後、祝辞を林美香子特別研究教授が述べ、答辞は学生代表の野中朋美君が述べた。修了者の今後の活躍が期待される。



狼委員長からの学位記授与

お知らせ SDM研究科英語ウェブサイトリニューアル

2010年4月、留学生や海外からの訪問者にわかりやすく、必要な情報を探しやすいページするため、SDM研究科の英語ウェブサイトを全面リニューアルしました。SDMの魅力である、少人数教育・研究指導、文理融合・新卒社会人融合のメルティングポット、国際的な企業出身の教員、企業との強い連携、海外大学との強い連携が伝わるものを目指しました。ぜひご覧ください。



▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/en/>

TOPIC 6 SDM研究所研究員北村憲康君 読売新聞に記事掲載



SDM研究所研究員の北村憲康君（東京海上日動リスクコンサルティング首席研究員）の記事が以下のとおり3月2日付の読売新聞に掲載された。小木哲朗教授、西村秀和教授との共同プロジェクト研究「安全運転力」に関連するもので、今後、3次元没入型ドライビングシミュレータを活用して研究を進展させる予定である。なお、北村憲康

君は、2010年4月にSDM研究科後期博士課程に入学した。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/03/18-112005.html>

TOPIC 7 農都共生ラボ活動報告書が完成

2010年3月に、2009年度農都共生ラボ活動報告書が完成した。林美香子特別研究教授が中心となっているアグリゼミの活動などが紹介されている。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/03/25-093229.html>



TOPIC 8 小木教授・西村教授 研究開発記事がnikkeiBPnet等に掲載



小木哲朗教授、西村秀和教授が進めている、安全運転教育用途を想定した3D没入型ドライビングシミュレータの研究開発に関する記事が株式会社テクノアソシエーツのHPならびにnikkeiBPnetに掲載された。

株式会社テクノアソシエーツのHP: ▶ <http://venturewatch.jp/20100325.html>

nikkeiBPnet: ▶ <http://www.nikkeibp.co.jp/article/news/20100326/217765/>

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/03/30-190824.html>

TOPIC 9 SDM研究所研究員安岡寛道君 講談社MOOK「セオリー 2010 vol.2」に記事掲載

SDM研究所研究員の安岡寛道君の記事が講談社のMOOK「セオリー 2010 vol.2」に掲載された。詳細は以下のとおり。

▶ http://shop.kodansha.jp/bc2_bc/search_view.jsp?b=3781240



TOPIC 10 春山教授の可視光通信デモがYouTubeで公開



2009年12月に開催された慶應テクノモールで、春山真一郎教授のグループが展示した可視光通信システムのデモがYouTubeで公開された。ロボットが照明からの情報をもとに、位置をセンチ単位で検出して動き回るというものである。

YouTube ▶ <http://www.youtube.com/watch?v=xWXIFXmu20>

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/04/08-090406.html>

研究室紹介

コミュニケーション・デザインラボ
(Communication Design Laboratory)

当麻 哲哉准教授

元・米国3M社Advanced Product Development Specialist
専門分野:ブロードバンド社会の先端システム開発と国際的マーケティング
グローバル企業開発技術者として海外で豊富なプロジェクトマネジメント経験。製品の市場導入、売り上げ貢献で受賞多数。



当麻研第1期修了生一同(3月修論発表会にて)

コミュニケーション・デザインラボ

この研究室では、「コミュニケーション・デザイン」をキーワードに、様々なコミュニケーション関連の研究を行っている。その範囲は、教育、医療、ITシステム開発、マーケティング、活字メディアなど幅広い。

そんな状況の中、本年度の研究活動は、理工学部小池康博教授を中心研究者とする「内閣府最先端研究開発支援プログラム～世界最速プラスチック光ファイバーと高精細・大画面ディスプレイのためのフォトニクスポリマーが築くFace-to-Faceコミュニケーション産業の創出」が中核をなしてくる。というのも当麻准教授が、このプロジェクトの3つのサブテーマのひとつ、「Face-to-Faceコミュニケーションシステム開発」のサブテマリーダーに任命されたからである。

当麻准教授 最先端研究開発のサブテマリーダーに

このプロジェクトが、2010年3月19日付日本経済新聞朝刊1面トップ記事「日本発の光技術 実用化へ」として紹介されたのは記憶に新しい。家庭の中にまで光通信ネットワークを構築するためのプラスチック光ファイバーの開発、それをつなげる家電機器の開発、そしてそこから

生まれてくる新しい製品やサービスなどの産業創出という壮大な計画のために、慶應義塾は「慶應フォトニクス・リサーチ・インスティテュート(KPRI)」を発足させ、所長に小池教授、副所長に前ローソンCIO横溝氏を迎え入れた。

ここでの当麻准教授の役割は、産学連携による新たな産業の創出である。すでにSONYや積水化学工業をはじめ、大手企業各社がこのサブテーマに参画を表明している。

当麻准教授はこう語る。「ここではテクノロジーの開発だけでなく、アプリケーションやビジネスモデルの開発も含まれ、まさに大規模複雑システムを扱う、システムデザイン・マネジメントが必要とされる場となることでしょう。そして、国民がワクワクするような未来を作り上げるために、SDMの先生がたが取り組んでいる最先端の研究、たとえば前野教授の触覚伝送、小木教授の超高解像度高臨場感映像、春山教授の可視光通信などの関連技術を結び付けていこうと思っています。参加企業の皆さんも、たいへん盛り上がりつつあり、大きな成果を生み出す土壌が揃って来ました。国民の期待に必ず応えていけると確信しています。」

当麻研究室 修士2年立石君が起業



立石幹人君は、学部在学中(慶應義塾大学環境情報学部村井純研究室)より「無線ネットワークビジュアルイゼーション」をテーマに情報リテラシーのあり方を研究しているが、SDM入学後は、当麻研究室で「ゼロ複屈折ポリマーを応用したり

立石君の声

近年、中国の経済的成長をはじめとして世界市場が大幅に拡大しています。これにより、各国が持つ強みを如何に世界市場に提示し魅了することが重要となっています。日本においては、その高度、かつインベティブである技術を如何に最適な市場に投入することが最重要課題となっています。しかし、技術の投入先にある市場、およ

アプロジェクションスクリーンの研究」に焦点を絞り、研究活動を続けている。立石君は、これまでの研究を活用したビジネスを展開するために、2010年4月15日にアメジスト株式会社を設立した。



び社会全体を見ることに目が行き届かない我が国では、技術を魅せるための方法を追求することに及んでいないのが現状です。今般設立したアメジスト株式会社では、そのような問題を、コンセプト・メイキングからイベント企画、ウェブ制作等のヴィジュアルメイキング、メディアアート作品制作を通じて、システム思考を用いた技術ブランディングの支援をさせていただきます。

▶ <http://www.amazist.co.jp>

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/en/voices/tateishi.html>



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

* Fax や E-mail での連絡の際には、お手数ですが Subject の先頭に「SDM 研究所」とお書きください。

SDM
System Design and Management